

## 第 34 回保存フォーラムの開催にあたり

この度は、第 34 回保存フォーラムにご参加いただきましてありがとうございます。

国立国会図書館では、図書館等で資料保存に携わっている方を対象に、その時々に関心を集めているテーマで、講演や事例報告を聞き、実務的な情報交換をする場として「保存フォーラム」を開催しております。

今回は、「フィルムと写真—劣化のしくみと保存対策—」をテーマとして開催します。

フィルム及び写真は物理的・化学的影響を紙資料より受けやすく、図書館の職員等にとっては管理が難しい資料の一つです。また、セルロースエステルをベース材料とするフィルム（TAC ベースフィルム）には、酢酸臭を発生して劣化する問題があり、TAC ベースフィルムでできたマイクロフィルムやネガフィルム、映画フィルムを所蔵する機関はその対策に苦慮しています。

そこで、今回の保存フォーラムでは、フィルムを中心にその劣化機構と保存対策について最近の動向を取り上げるとともに、事例報告として図書館等による取組をご紹介します。事例報告には、フィルムに加えて、プリントやガラス乾板等の写真への保存対策も取り上げます。

なお、視聴後のアンケートでいただいた質問には、講演いただく先生方に可能な範囲でご回答をお願いし、後日当館のホームページに掲載する予定です。

今回の内容が、フィルム及び写真を適切に保存・管理していく方法を検討したり、見直したりする上で、少しでもお役に立ちますと幸いです。

令和 5 年 12 月 13 日

国立国会図書館収集書誌部資料保存課

# 報告者紹介

## 報告 1 東京都写真美術館における写真の保存

山口孝子氏（東京都写真美術館保存科学専門員）

東京都写真美術館は、日本で初めての写真と映像分野を併せ持った美術館として、平成 7 年に総合開館しました。山口氏は、写真保存の専門家として東京都写真美術館に勤務するほか、日本写真学会画像保存部会メンバー等として長年、写真の保存に取り組まれています。本フォーラムでは、東京都写真美術館における様々な取組について、収蔵環境等を含めてご紹介いただきます。

## 報告 2 東京大学経済学図書館におけるマイクロフィルムの保存対策と保存環境について

小島浩之氏（東京大学大学院経済学研究科講師、東京大学経済学部資料室室長代理）

京都大学大学院文学研究科修了。専門は東洋史学及び歴史資料の保存と活用に関する研究。保存関係の著作に『図書館資料としてのマイクロフィルム入門』（共編著）、「図書館資料保存試論」などがあります。本フォーラムでは、対策に関わられた東京大学経済学図書館におけるマイクロフィルムの保存対策と劣化フィルムから生成される酢酸ガスへの対応等について具体的にご紹介いただきます。

## 報告 3 写真の支持体と TAC ベースフィルムの劣化について

梅本眞氏（フジフィルムスクエア・コンシェルジュ）

長年、富士写真フィルム株式会社にて写真の感光材料等の研究開発、品質評価に従事し、平成 22 年同社を定年退職後は、富士フィルム研修センター非常勤講師、国立科学博物館主任研究員、武蔵野美術大学非常勤講師等を歴任されました。現在は、フジフィルムスクエアに併設される写真歴史博物館でコンシェルジュを務めています。本フォーラムでは、保存対策を考える上で重要となります、劣化の仕組みとその対策を科学的側面から解説いただきます。

## 報告 4 国立国会図書館におけるマイクロフィルム劣化対策の現況

吉井伶奈（国立国会図書館収集書誌部資料保存課主査兼保存企画係長）

国立国会図書館では、916 万点のマイクロ資料を所蔵しており、TAC ベースフィルムの劣化が知られるようになった 1990 年代初頭から様々な対策に取り組んできました。報告では、2019 年から実施している「マイクロ資料長期保存対策実施計画」に基づく取組を中心に、マイクロ資料に対するこれまでの調査・対策も含めて紹介します。